

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育実習Ⅱ	授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者	当該科目に関する 実務経験
			青田 由美子	保育士
			柳田 真理子	保育士
授業の回数	時間数 (単位数) 80 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年・後期	必修・選択 選択	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育実習は学内で学習した理論を、保育士の仕事に助手的な形で携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合をはかることを目的とする。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習を通して個々の子どもの実態を把握し、乳幼児集団について理解する。 実習を通して保育士の援助の方法を習得する。 実習を通して保育計画を理解し指導計画の立案の実際について学び実践する。 実習を通して保育士集団の役割を理解する。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 部分実習を行うことで保育と子どもについて実践的に学ぶ。 乳幼児との関わりを通して子ども理解を確かなものにする。 保育士の役割や専門性を知り、必要な知識や技術を習得する。 				
<p>[実習方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育所での生活に参加し指導案計画の具体的立案の方法を保育の実践に即して理解する。 <p>[実習段階の具体的な内容]</p> <p>① 見学・観察実習 保育の実際の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児のおおまかな行動と展開、それともなう保育士の対応を把握する。</p> <p>② 参加実習 担当保育士の指示に従い、保育士の助手として参加する。対象児と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、保育士の援助を学ぶ。</p> <p>③ 責任実習 (部分実習) 生活面の一部、あるいは遊びの一部など一日の流れの部分において、事前に指導案を作成し主体的に保育を実践する。</p> <p>④ 責任実習 (全日実習) 実習先での一日の保育の流れを通して、学習したあらゆる知識・技術・技能を統合する。担当保育士の助言を受けつつも、実際に自己の支援計画を前面に打ち出し、保育士としての責任の一端を担い、ほぼ終日保育活動を行うとともに、それに関連した保育業務を担当する。</p> <p>[実習の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育実習Ⅰの経験を踏まえ、指導案に基づいた責任実習を行う。 保育所保育士としての意識を高め。全般的な技術を習得する。 よき保育士になるための自覚と今後の学習目標を明確にする。 				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育所施設実習ハンドブック (ミネルヴァ書房) ・実習の手引き 				
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 考查点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> 到達目標の修得状況を測るために、実習評価の成績により期末考查を実施する。 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 				

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル(科目名) 保育実習Ⅲ	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)		授業担当者	当該科目に関する実務経験
			青田 由美子	保育士
			柳田 真理子	保育士
			配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 選択
授業の回数	時間数(単位数) 80時間(2単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 選択	
[授業の目的・ねらい] ・ 施設の一日の流れを把握し、入所児童や入所者とコミュニケーションを図ることにより利用者の理解を深め、施設の意義と今日的役割を理解する。 [授業全体の内容の概要] ・ 実習を通して個々の利用者の実態を把握し、集団の生活について理解する。 ・ 実習を通して好ましい援助の方法を具体的に体得する。 ・ 実習を通して施設職員の役割と連携を理解する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ 施設の概要を把握し、施設の実態を理解するとともに、利用者や施設の意義を学ぶ。				
[実習方法] ・ 施設での生活に参加し、生活・学習・余暇活動等、援助について体験的に理解する。 [実習段階の具体的な内容] ① 見学・観察実習 施設での指示を仰ぎながら生活の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児・者のおおまかな行動と展開、それにとまなう職員の対応を把握する。 ② 参加実習 担当職員の指示に従い、生活に参加する。対象児・者と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、保育(養護)の援助を学ぶ。 ③ 責任実習(部分実習) 施設での指示を仰ぎながら可能であれば生活面の一部、あるいは遊びの一部など一日の流れの部分において、事前に支援案を作成し主体的に保育を実践する。 ④ 責任実習(全日実習) 実習先での一日の保育の流れを通して、学習したあらゆる知識・技術・技能を統合する。担当保育士の助言を受けつつも、実際に自己の支援計画を前面に打ち出し、保育士としての責任の一端を担い、ほぼ終日保育活動を行うとともに、それに関連した保育業務を担当する。 [実習の課題] ・ 保育実習Ⅰの経験を踏まえ、支援案に基づいた責任実習を行う。 ・ 実習施設の内容や機能、保育士の役割と求められる専門性、対象児・対象者とそのニーズについての理解を深める。 ・ よき保育士になるための自覚と今後の学習目標を明確にする。				
[使用テキスト・参考文献] ・ 保育所施設実習ハンドブック(ミネルヴァ書房) ・ 実習の手引き				